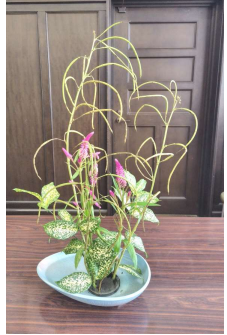


「変わらない、それでいて変わりゆく」

県立神戸高等学校長
新谷 浩一

○ きれいな黄昏が待ち遠しいこの頃です

長雨が続きたり、一転、蒸し暑い1日となったり、なかなか心の落ち着かない9月です。学校行事も満載。忙しいなかだとは思いますが、校長室をいつも飾ってくれる華道部が、秋の訪れを感じさせる花を持参してくれました。メッセージが添えられています。



「いつもありがとうございます。今回は細い茎や落ち着いた色合いにどこか物悲しい秋を感じられる花材です。『野ケイトウ』とも呼ばれるセロシアは『おしゃれ』『個性』というユニークな形にぴったりの花言葉を持っています。足元に木漏れ日のような斑点が美しいゴットをあしらいました。秋の気配を感じていただけたら嬉しいです。季節の変わり目、お身体にお気をつけてお過ごしください」

○ 「変わらない」それでいて「変わりゆく」

雨の合間を縫って、10月1日開催の体育大会の準備も進んでいます。1、2年生が披露する『神高の歩み』の練習は少しずつ完成していく様が魅力的で、華やかなクラスTシャツも魅力的で、見惚れてしまいます。そこにあるのは伝統を大切にしながらも、新たなカタチを目指して進化する神高生の姿に他なりません。女子生徒のポンポンによる人文字や突き上げた腕、男子生徒の「構え」も実に決まっていますよね。



かつて、この学校で働いておられた先生から私の許に手紙が届くことがあります。『神戸高校 130 年誌』をお届けした元校長先生からは「総合理学科が順調に発展している様子を始め、特色ある学校行事の継続等、神高が着実に発展していく様子を嬉しく思った次第です」との感想をいただきました。

また、かつて国語教師としてこの学校で長く教鞭をとられた先生からは「10 年間お世話になった神戸高校に対する愛情と感謝の念は、今でも色褪せることはありません」との言葉とともに、その方が執筆された『兵庫県史』を贈ってくださいました。その冊子には昭和 63 年、兵庫県開催の全国高校総体登山の部で神戸高校が最優秀校賞を獲得したことや、平成 16 年に文部科学省からスーパーサイエンスハイスクールに指定された神戸高校がそれからの県内の科学技術系人材の育成において県全体を牽引したことが書かれています。

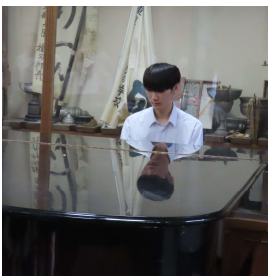
神戸高校史は兵庫県史の一部なのですね。皆、私の先輩教員。そこで私はこんなふう to 返信を書きます。「思えば私みたいな者がこうして今、神戸高校で働かせていただいているのは多くの先輩方の教えがあったからこそであると、今更ながら感じております。神戸高校は素晴らしい学校です。日々、思うことがあり、それを拙文ではありますがホームページ上の『校長の窓』の頁に通信として掲載しています。変わらない、それでいて変わりゆく神高生の姿を見ていただければ幸いです」 私から先輩方への感謝の言葉なのです。

華やかなクラスTシャツを羽織り、一糸乱れぬようにと演技する姿は「変わりゆく」と「変わらない」の融合ですね。一方、歌声で満ち満ちている校舎、講堂、芸術棟、一誠会館、そしてホームルーム教室。合唱コンクールを目前に控え、早朝から常に何処からか聞こえる歌声はおそらく「変わらない」神高生の姿です。

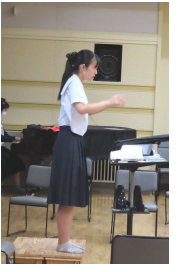
その光景を少しでも長く見ていたいとの思いから、ここ最近の私はいつもより早いバスに乗っています。



生徒の皆さんも歓迎してくれましたが、担任の大和先生や中山美理先生が同じような笑顔で出迎えてくれたのは嬉しかったですね。ともにとても柔らかな雰囲気での練習ができていて、こちらまで心が和みました。



また、合唱練習を引っ張るリーダーシップに溢れる生徒の姿が目につきました。指揮者もピアニストも然りですね。背負って出る人、それこそが前々回の通信に書かせてもらった「敢えて火中の栗を拾う人」に他なりません。誰かが背負わないと、物語は動き出しませんからね。背負う人がいて、その背中を信じてともに支える人がいて、この世界は前に動いていきます。背負っている人、支えている人、本当にありがとう。



振り返ればスクワット状態での練習を見せていただきました。着替える時間を惜しんでの体操服姿での合唱もを見せていただきました。各クラスが様々な工夫を凝らしながら練習に励む姿を見られたのは幸せでした。

さて、今回、最後に触れるのはこのクラス。過日、授業を見て回っているとき、このクラスが気になったのです。科学棟での山下先生の授業中、あまりにも楽しそうに実験に取り組む姿が印象的すぎて。私は担任の先生にそのことを伝えました。そこで返ってきた答えは「先生、歌の練習のときもいい顔をしていますよ」。



教室練習を見ました。その後、偶然に宝塚階段での合唱練習にも立ち会えました。前平先生、仰る通りでしたよ。では、再び繰り返します。思いのこもったあなたのクラスの歌、聴けると嬉しいな。

